

地域情報化アドバイザー制度活用報告書（3日目）

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	大阪府	代表者名	吉村 洋文
担当者部署	スマートシティ戦略部	連絡先電話番号	06-6210-9097
担当者役職	主査	担当者氏名	川満 将吾
		連絡先E-mail	
住所	559-8555 大阪府大阪市住之江区南港北1-14-16		

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	三木 浩平
評価	大変よい
上記評価の理由（どのよう なところがよ かったか等詳 細に）	行政手続きのオンライン化について、国の動向を中心に広範囲にわたってご講演いただき、府内市町村の職員にとって非常に参考になるものでした。講演終了後のアンケートにおいても、「大変参考になった」もしくは「参考になった」との意見が9割以上との結果であり、大変有意義な講演でした。
アドバイザーへの要望事項	今後も情報システム標準化・行政手続きのオンライン化について、大阪府・府内市町村に対してアドバイスを頂ければと思います。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）	活動時間（分）
3-1. 活動	2022年1月25日	13時30分	15時45分		135
	派遣形態	講演（オンライン）			

4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	府内市町村の職員	101人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 （具体的にご記入下さい）	人口規模の小さい自治体では特に、情報部門専任の要員がないため、標準化対応と同時に、行政手続きのオンライン化（マイナポータル・びったりサービスと基幹業務システムの接続や、汎用電子申請システムの導入）対応を進める負担が非常に大きい。当然、対応を進める前段である、情報を収集・理解するところも、非常に負担となっている。	
支援により目指す成果 （具体的にご記入下さい）	市町村職員が行政手続きのオンライン化にかかる国等の動向を理解し、行政手続きのオンライン化について、要否を判断しながら進められるようになる。	
アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	大阪府が主催する「行政手続きのオンライン化勉強会」において講演して頂いた。講演では、国の動向等を体系的にご解説いただいた他、民間ツール利用例・セキュリティ・人材の確保等についても説明いただき、オンライン化に必要な情報について幅広くご講演頂いた。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	行政手続きのオンライン化にかかる国等の動向等について、市町村職員が疑問に思っていたことが解消し、理解が深まった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 理解が深まることにより、今後オンライン化の検討が進むと考えます。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	特になし	

アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。）アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>講演終了後のアンケート結果は以下のとおり。WEB会議システムのアンケート機能を活用したため、WEB会議へのアクセス単位でアンケートに回答する方法を採用した。 「大変参考になった」12 「参考になった」29 「あまり参考にならなかった」2</p>	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	③现阶段では課題・問題が残っているため未定
事業の最終的な目指す姿		

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

The image displays two screenshots of a Cisco Webex Meeting interface. The top screenshot shows a presentation slide titled "令和3年度 行政手続のオンライン化 勉強会" (Onlineization of Administrative Procedures Study Meeting, FY2021). The slide content includes "手続きオンライン化へのステップと重要要素" (Steps and Key Elements for Onlineization of Procedures) and "～オンライン手続きの選択肢、クラウド利用のセキュリティ、DX人材確保～" (Options for Online Procedures, Security of Cloud Usage, Ensuring DX Talent). The presenter is identified as Kohei Miki, Digital Inclusion Advisor, Ministry of Finance, dated January 25, 2022.

The bottom screenshot shows a presentation slide titled "RCSの利用シーン" (Usage Scenarios of RCS). It lists various scenarios such as "人事・採用" (Personnel/Recruitment), "システム" (System), "アプリ" (App), "公共" (Public), "飲食" (Food/Dining), and "保険" (Insurance), each with a brief description of how RCS is used in that context.